岩手県における肝疾患拠点病院活動の現状と課題

岩手医科大学　消化器内科肝臓分野

滝川康裕

2018.1.26 肝疾患拠点病院会議, 於東京

医療機関の連携と患者に対するサポート

拠点病院	1
専門医療機関	16
かかりつけ医	68
一般医療機関	約850

肝炎
患者

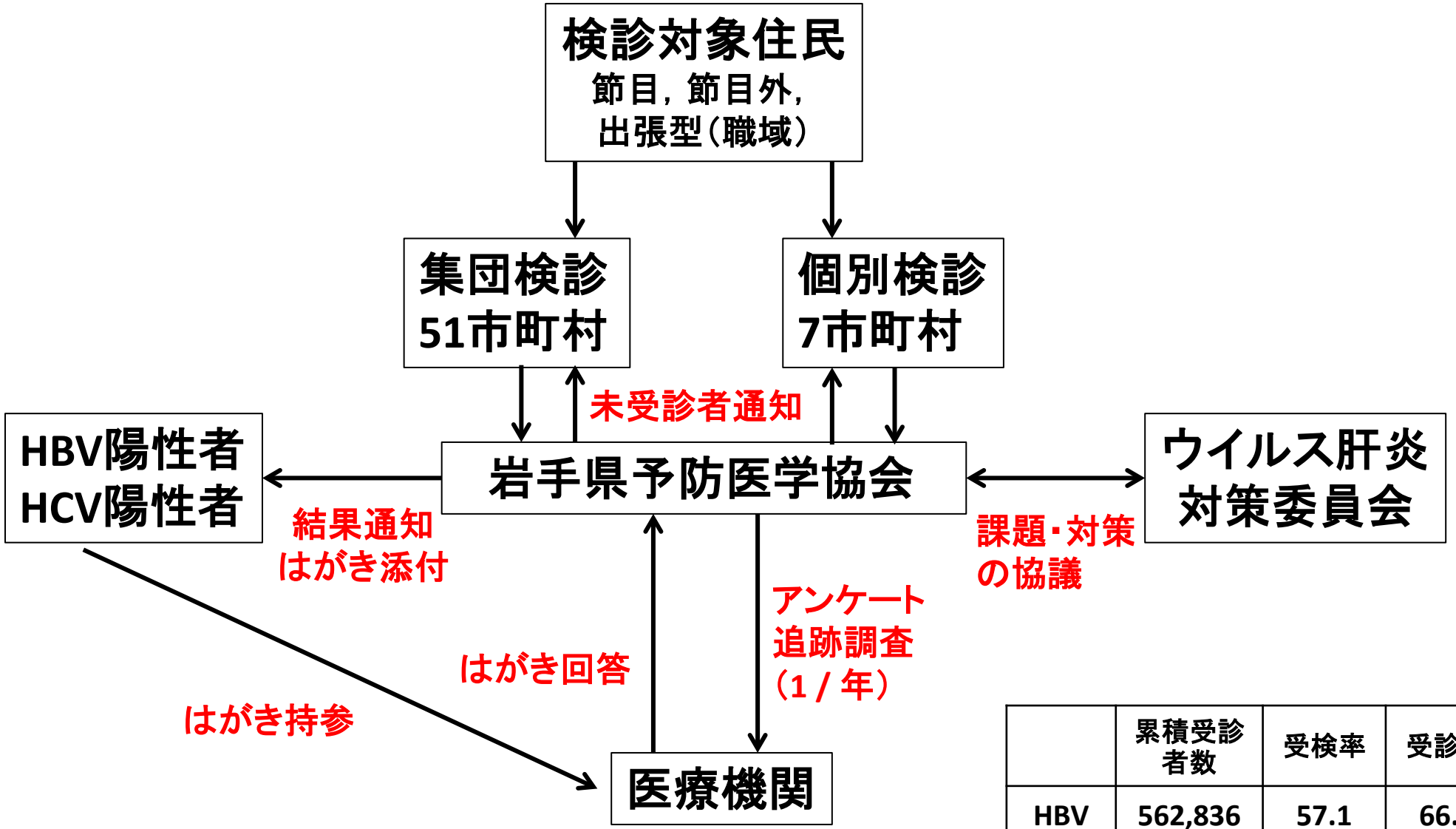
C型肝炎患者会
「いわて肝友ネット」

行政
- 健診，フォローアップ事業
- 医療費助成事業
- 肝疾患アドバイザー養成

拠点病院
- 肝疾患ネットワーク事業
- 肝疾患相談室
- 肝臓病教室

岩手県における
1. 健診事業とその成果
2. アドバイザー養成事業とその活動

岩手県の肝炎ウイルス検診，フォローアップ体制



	累積受診者数	受検率	受診率
HBV	562,836	57.1	66.6
HCV	466,098	53.2	66.8

岩手県の肝炎ウイルス検診，フォローアップ体制の特徴

全県の検診をほぼ単独の検査機関が実施し，行政と肝疾患診療ネットワークがバックアップ

県全体の動向調査が可能

他の検診との比較（学童検診など）

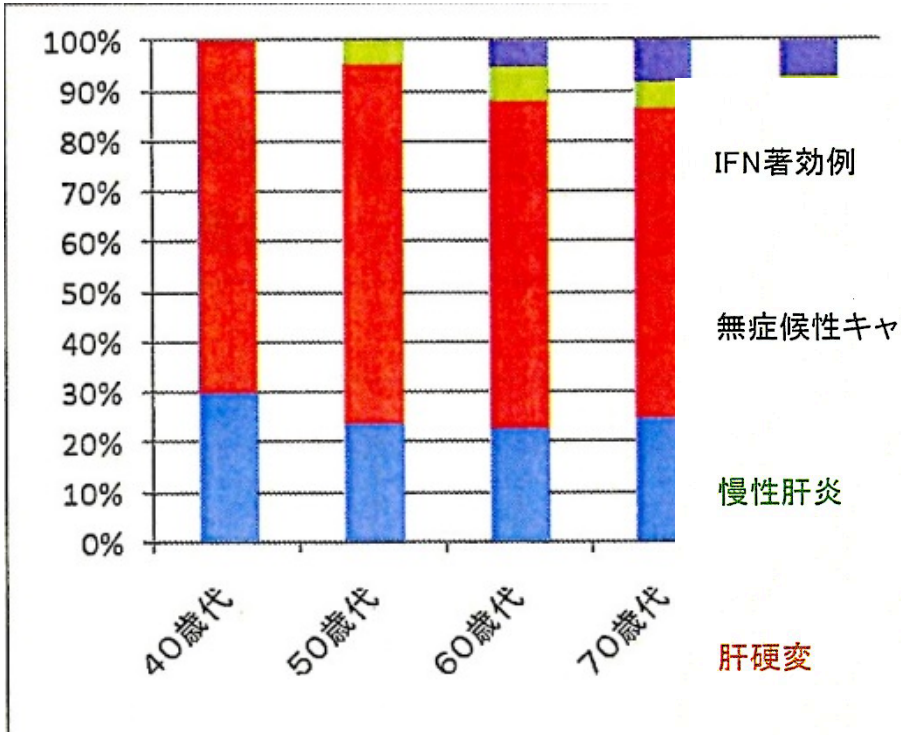
歴史的変遷の把握が可能

厚労省班会議との連携（田中班，須磨崎班）

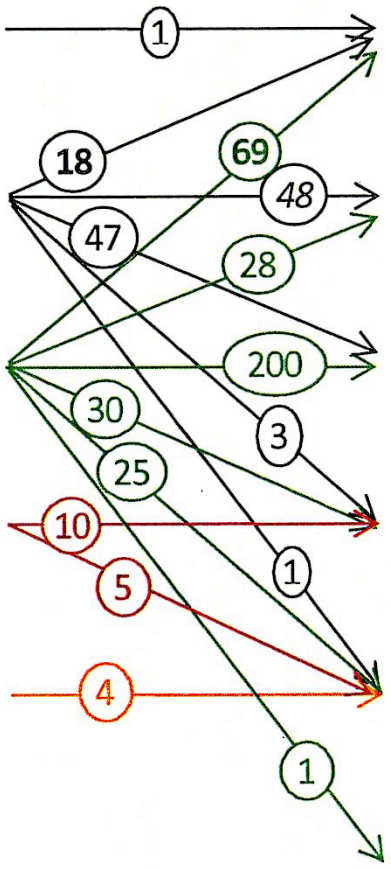
フォローアップ体制が確立

岩手県の検診・フォローアップシステムによる肝炎患者の動向調査

HCV陽性患者の年齢と病態



HCV患者の1年間の病態変化



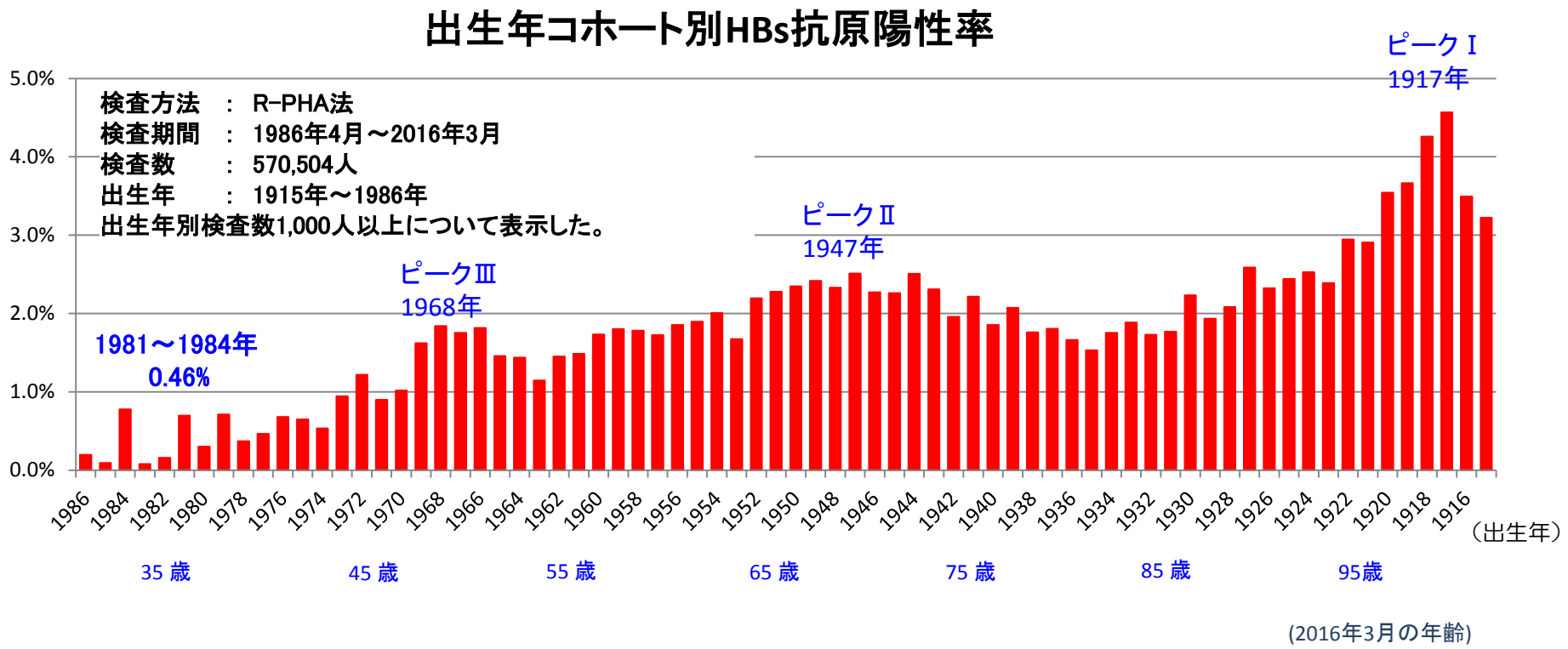
IFN著効例	1	0.2%	88	18.0%
無症候性キャリア	117	23.9%	76	15.5%
慢性肝炎	353	72.0%	247	50.4%
肝硬変	15	3.1%	43	8.8%
肝細胞癌	4	0.8%	35	7.1%
肝硬変～肝不全			1	0.2%
	490	100.0%	490	100.0%

岩手県における肝炎ウイルス検診のまとめ

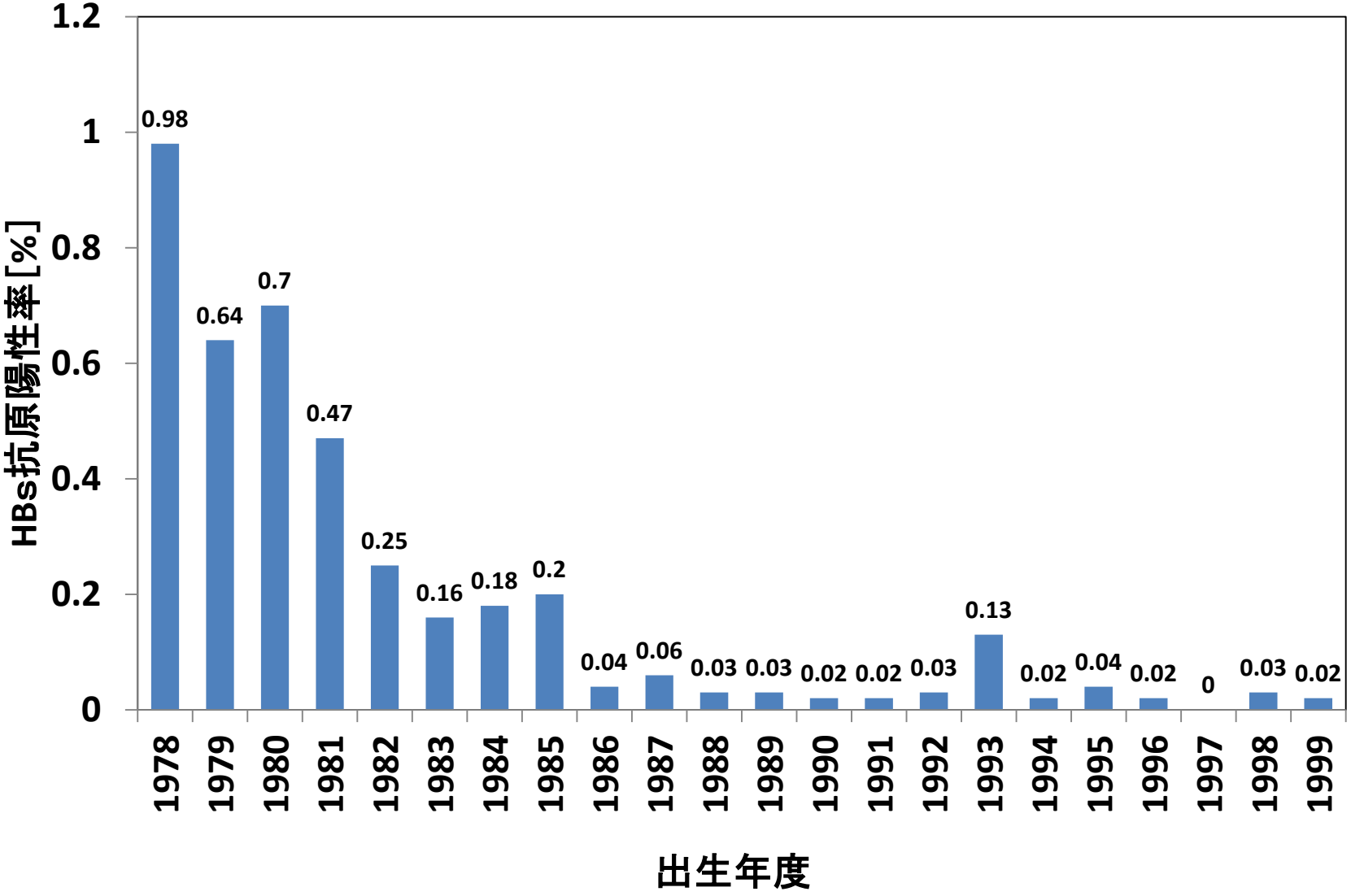
	検診期間	受検者数	陽性者	陽性率	40-79才受検率
HBs抗原	1986-2017	599,991	11,272	1.88	61.2
HBs抗体	1986-2017	177,922	66,486	23.9	-
HCV抗体	1996-2017	489,250	2,983 (キャリア)	0.61	54.5

出生年コホート別にみたHBs抗原陽性率

検診期間1986.4月 ～ 2017.3月

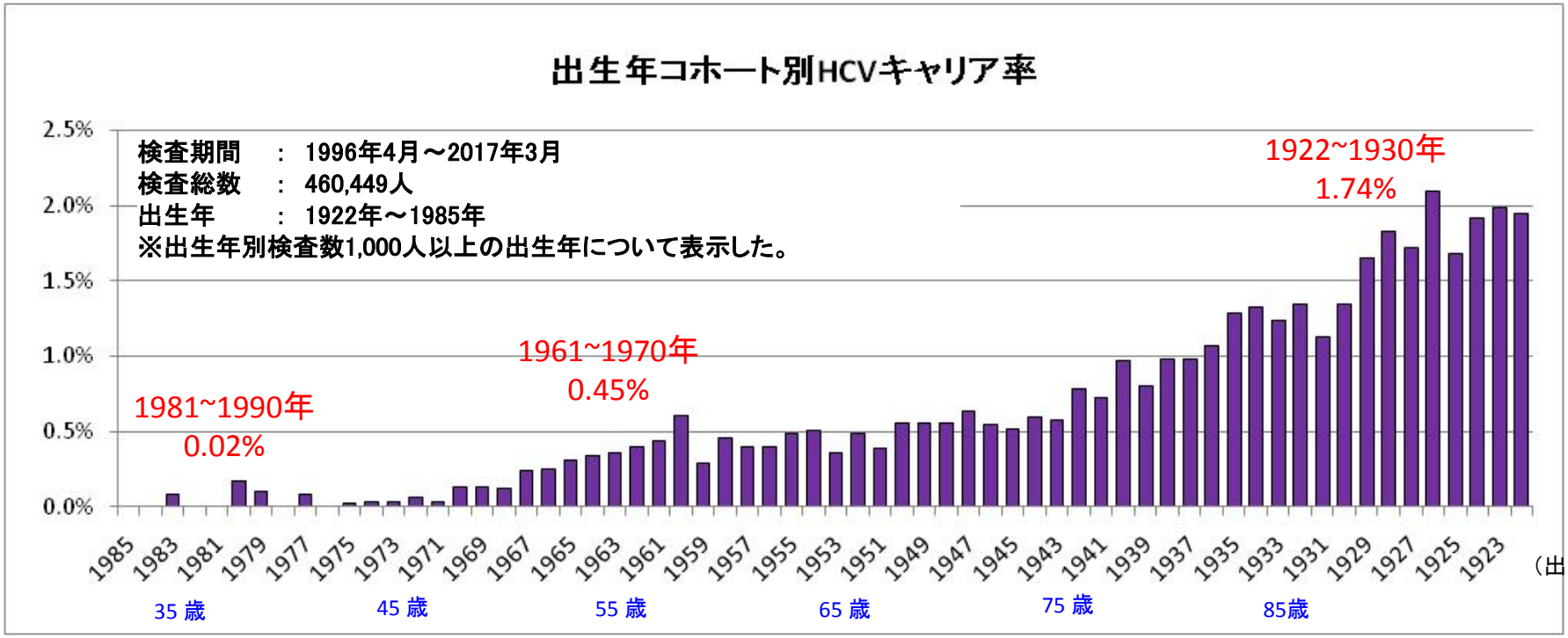


岩手県における出生年度別HBs抗原陽性率
－ 学童検診 －



出生年コホート別にみたHCVキャリア率

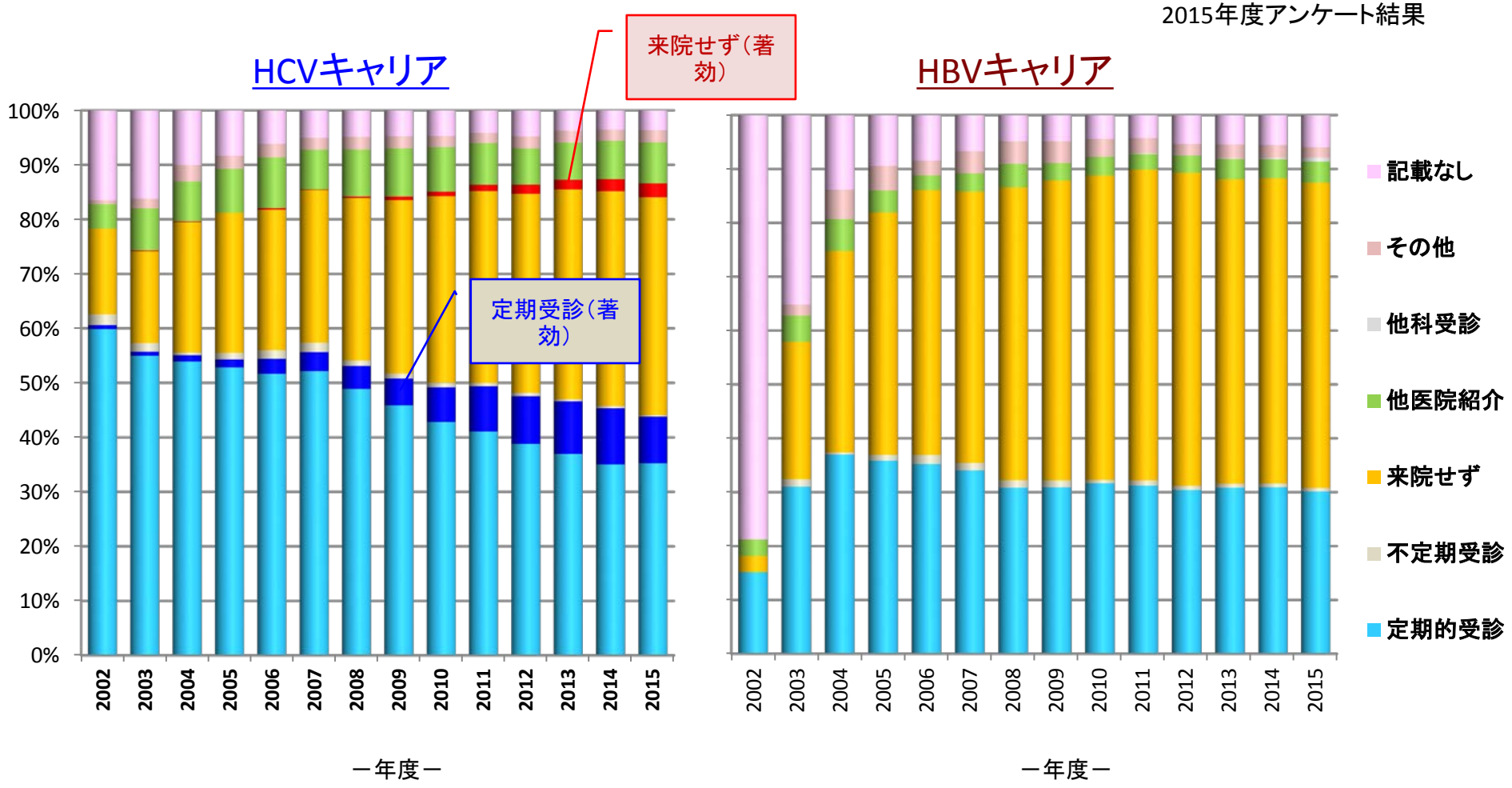
検診期間：1996.4 ～ 2017.3



2016年3月の年齢

医療機関受診状況　　-年度別推移-

2015年度アンケート結果

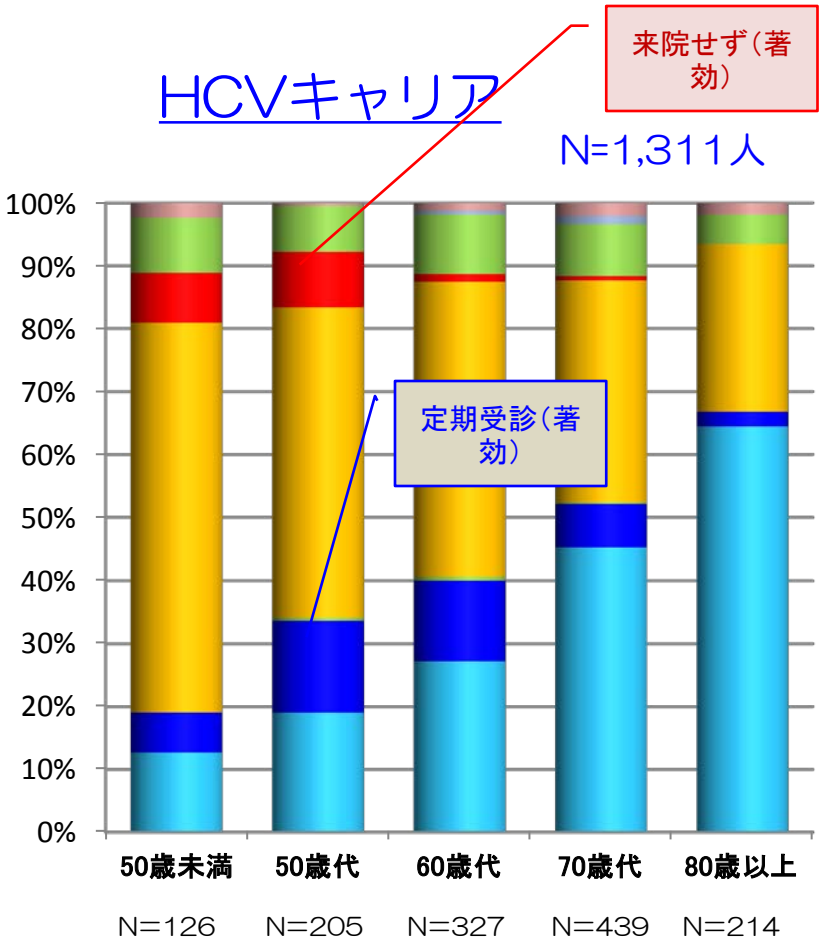


医療機関受診状況　-年代別-

2015年度アンケート結果

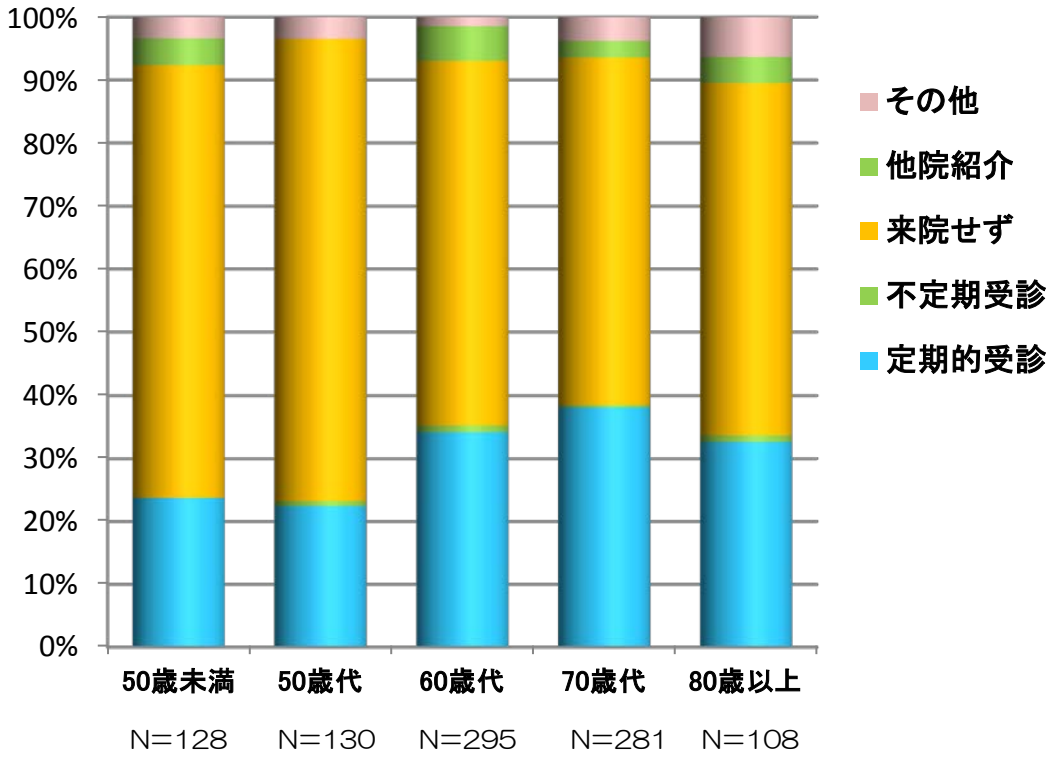
HCVキャリア

N=1,311人



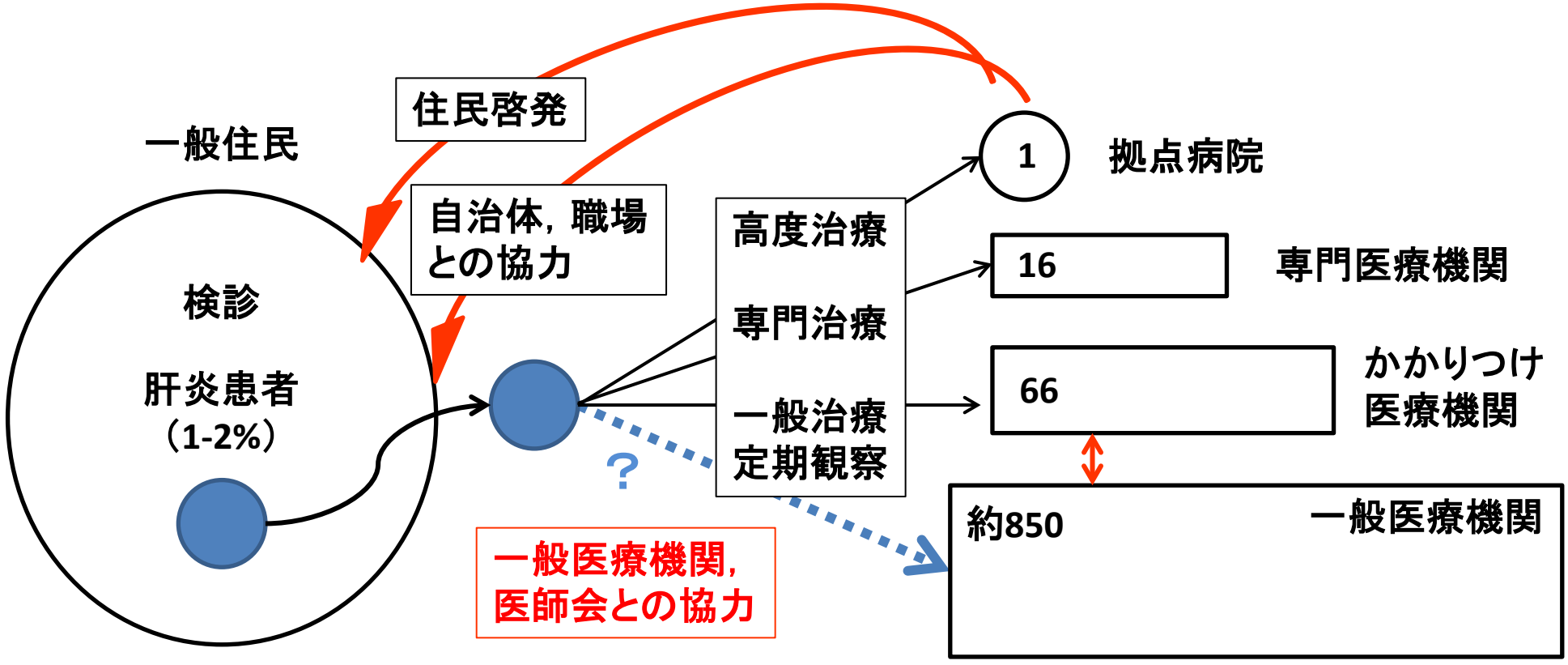
HBVキャリア

N=942人



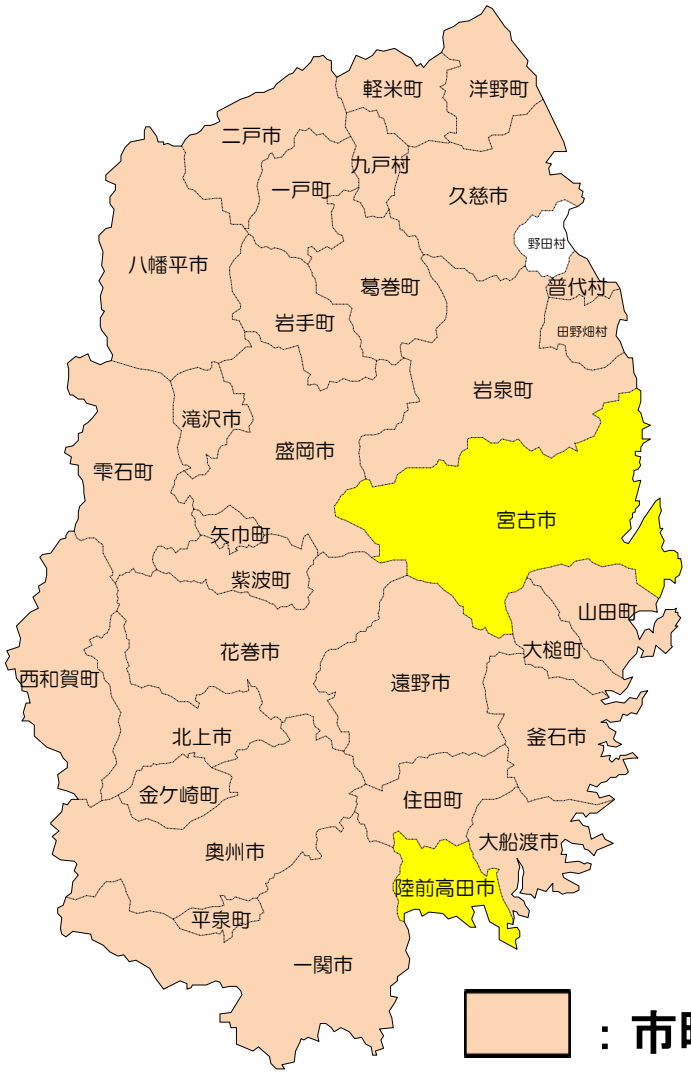
岩手県の肝炎診療の課題

受検査率	50%台
受診率	60%台
定期受診率	30%台
治療率	おそらく低い



肝疾患コーディネーター（アドバイザー）の役割

岩手県の肝疾患アドバイザー養成の実績



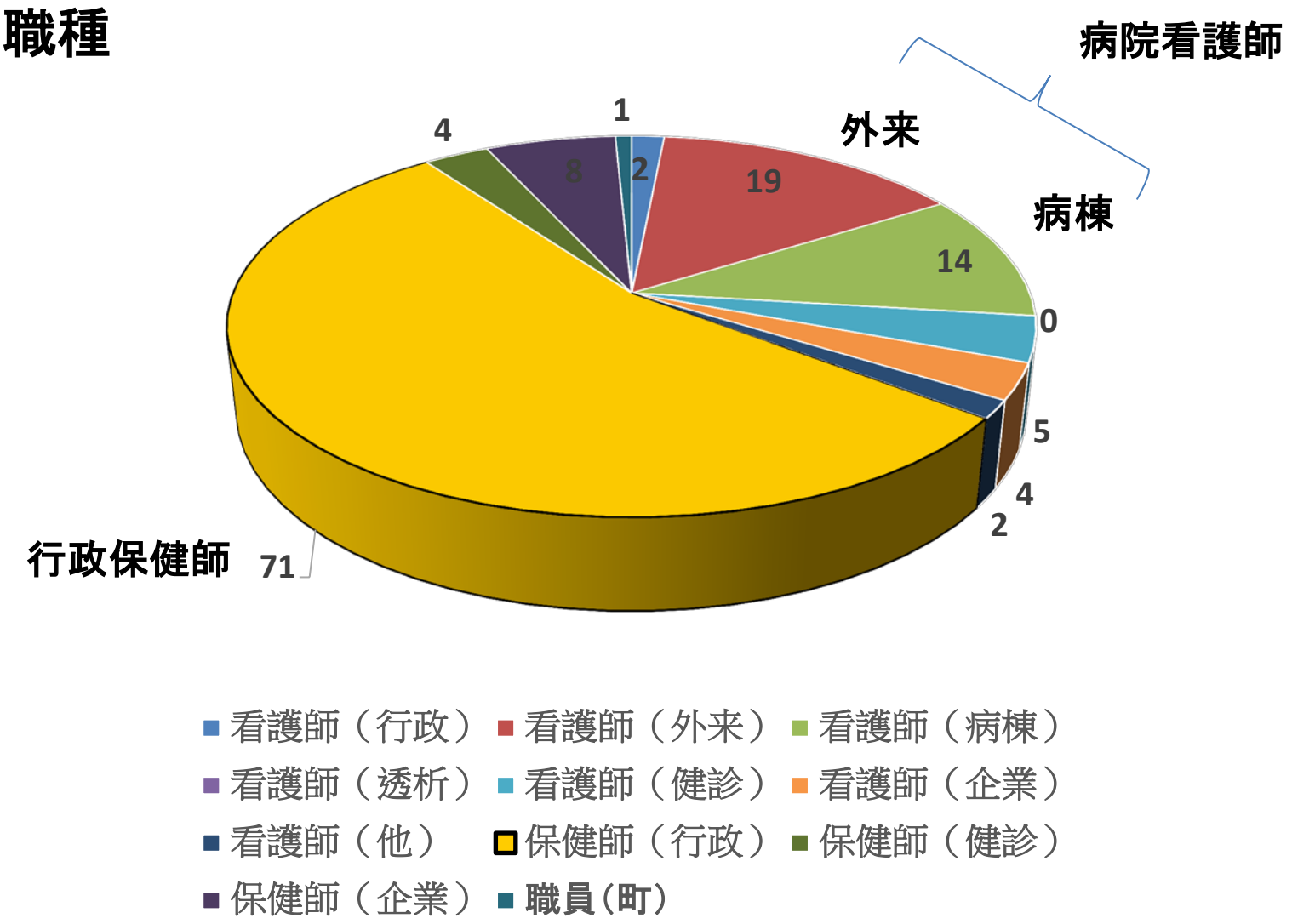
：市町村保健師受講済

：それ以外の受講

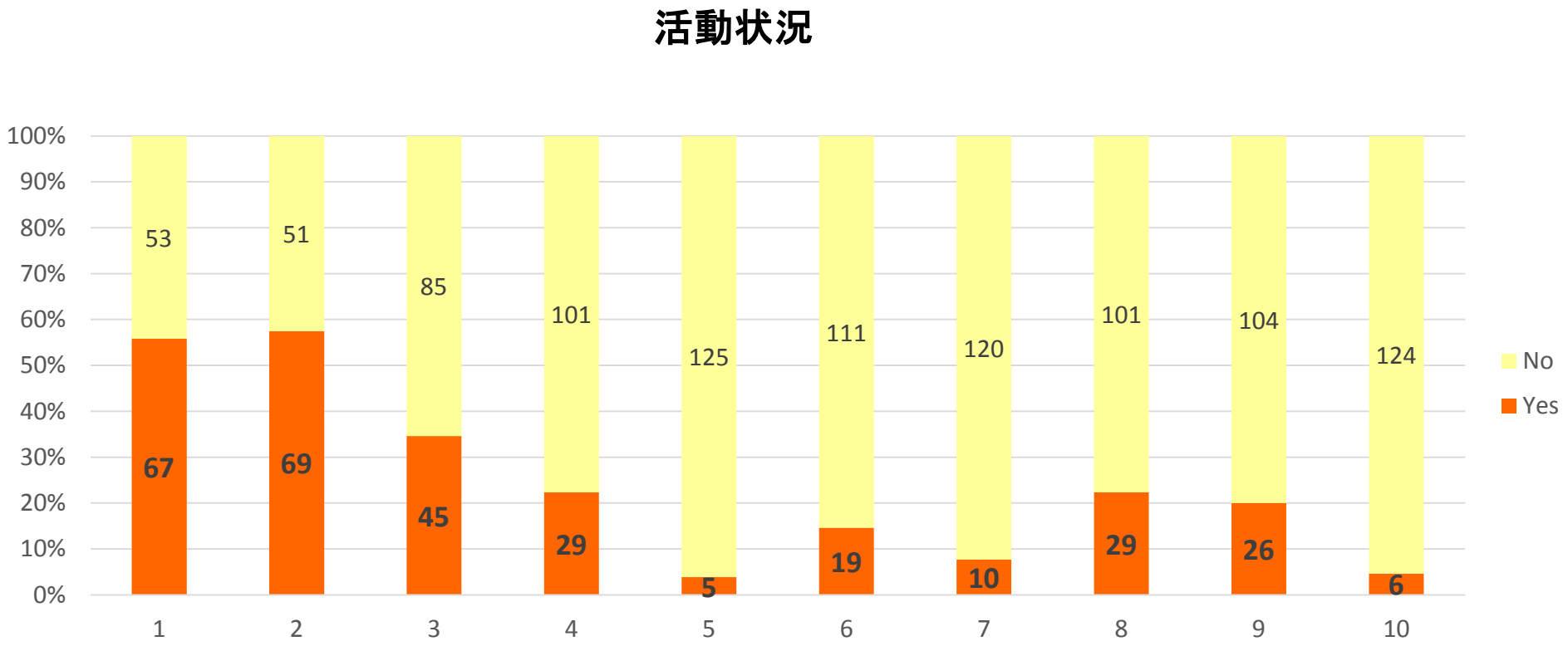
職　種	2011	2012	2013	2014	2015	2016	計
医　師	1						1
栄養士		1					1
看護師	25	15	10	12	16	12	90
事務職	1						1
保健師	15	13	14	37	15	15	109
臨床検査技師				1			1
計	42	29	24	50	31	27	203

受講者総数
4年で更新のため重複あり，実数は総計176名
2017年58名受講し，実数も200名を超える.

地域肝疾患アドバイザーの活動状況に関するアンケート調査



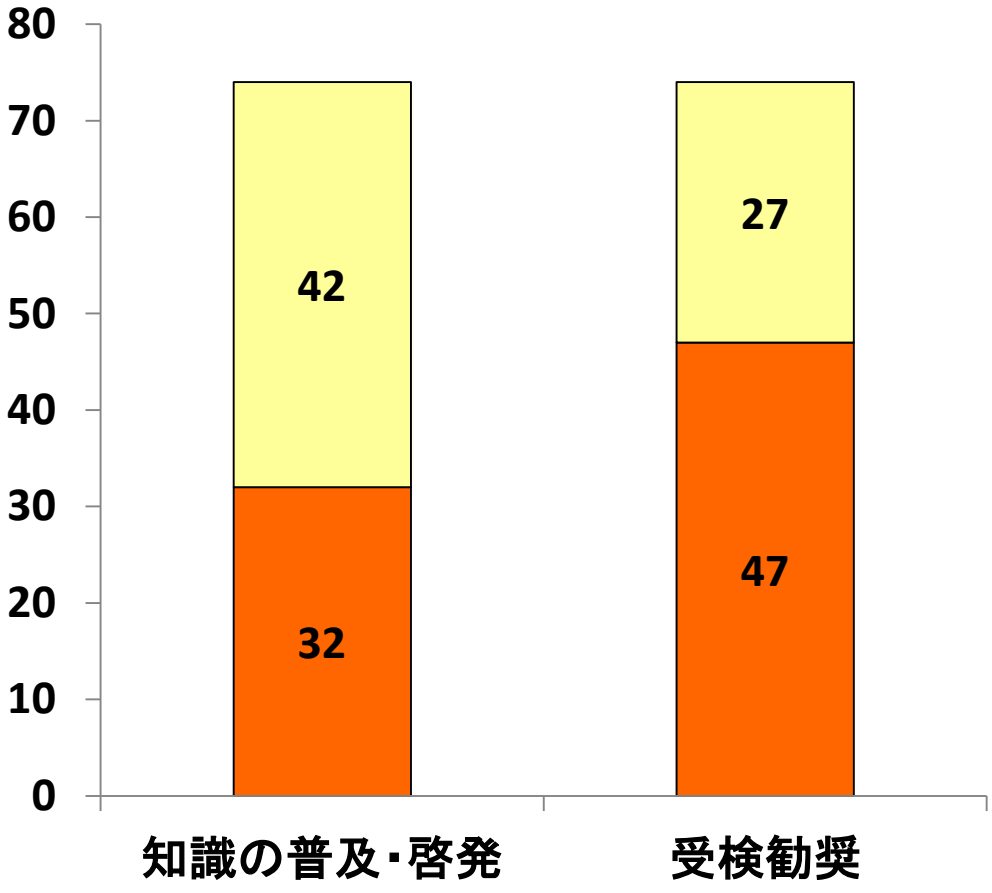
地域肝疾患アドバイザーの活動状況に関するアンケート調査



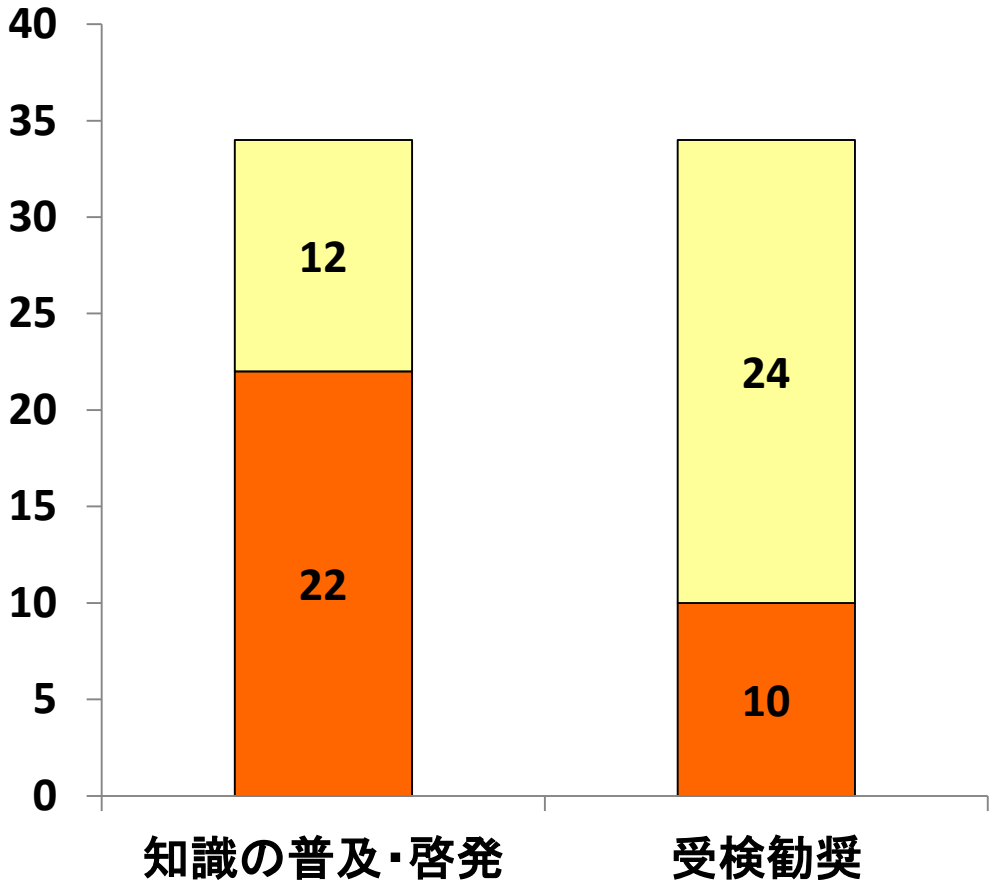
1. 「肝臓病」「肝炎ウイルス感染予防」「肝炎治療」「医療費助成制度」などについての正しい知識の普及啓発
2. 肝炎ウイルス検査の受診勧奨
3. キャリアへの受診勧奨
4. キャリア・患者への肝臓専門医や専門医療機関の紹介
5. かかりつけ医から肝臓専門医の橋渡し
6. キャリア・患者への治療の受療勧奨
7. フォロアップシステムの説明
8. キャリア・患者・家族への精神的ケアや相談対応
9. 特段に活動なし
10. その他

地域肝疾患アドバイザーの活動状況に関するアンケート調査
職種別の活動状況

行政保健師



医療機関看護師



HCV高浸淫地区S町の取り組み

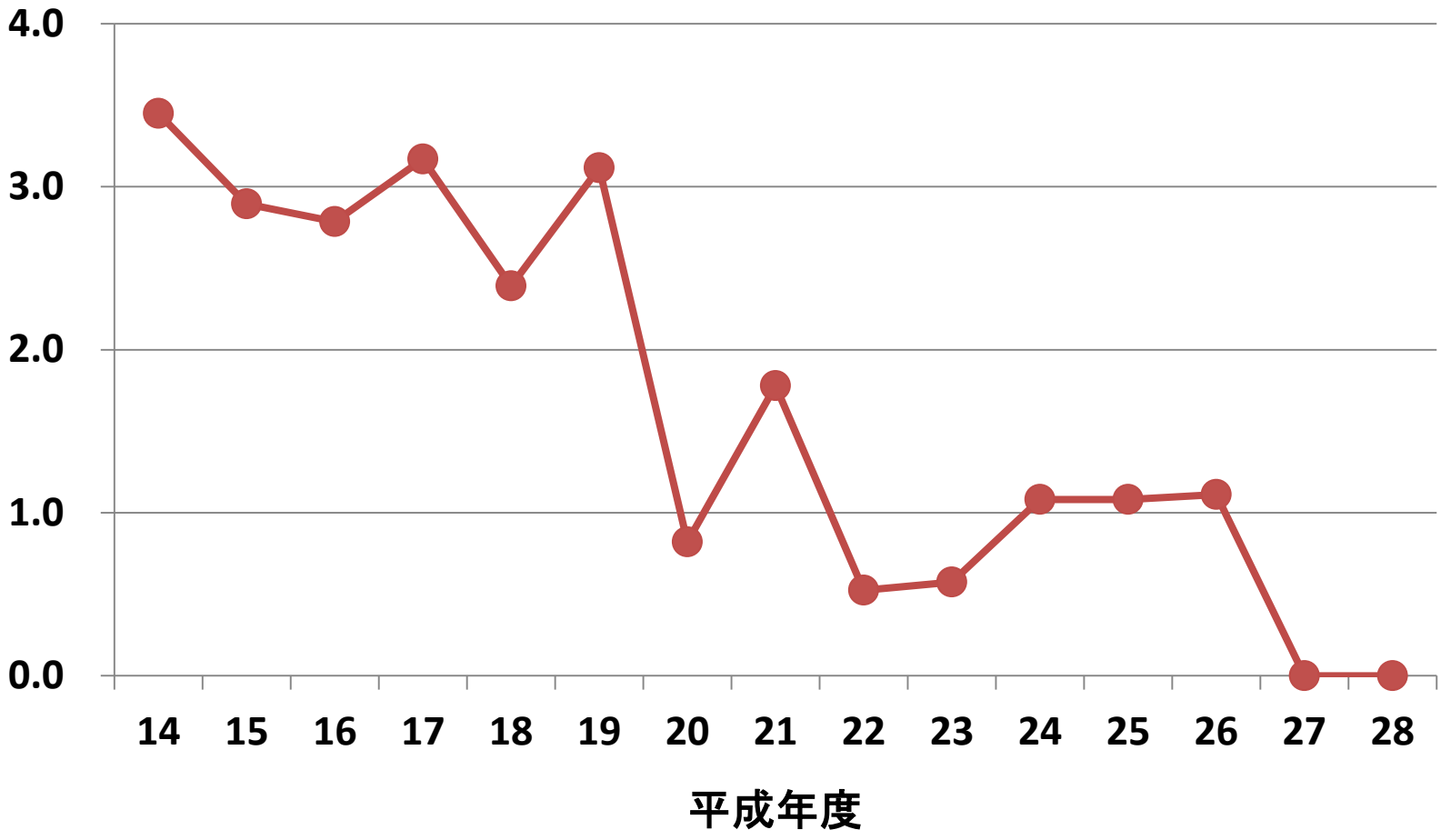
HCV陽性率 5.93% (789 / 13298 人)
陽性者の65%が80才以上
肝癌死亡率: 57（人口10万対）, cf 岩手県22.6/平成22年

町独自の肝炎対策検討会設置
肝疾患診療専門医，町医師団，検診機関
岩手県C型肝炎患者会

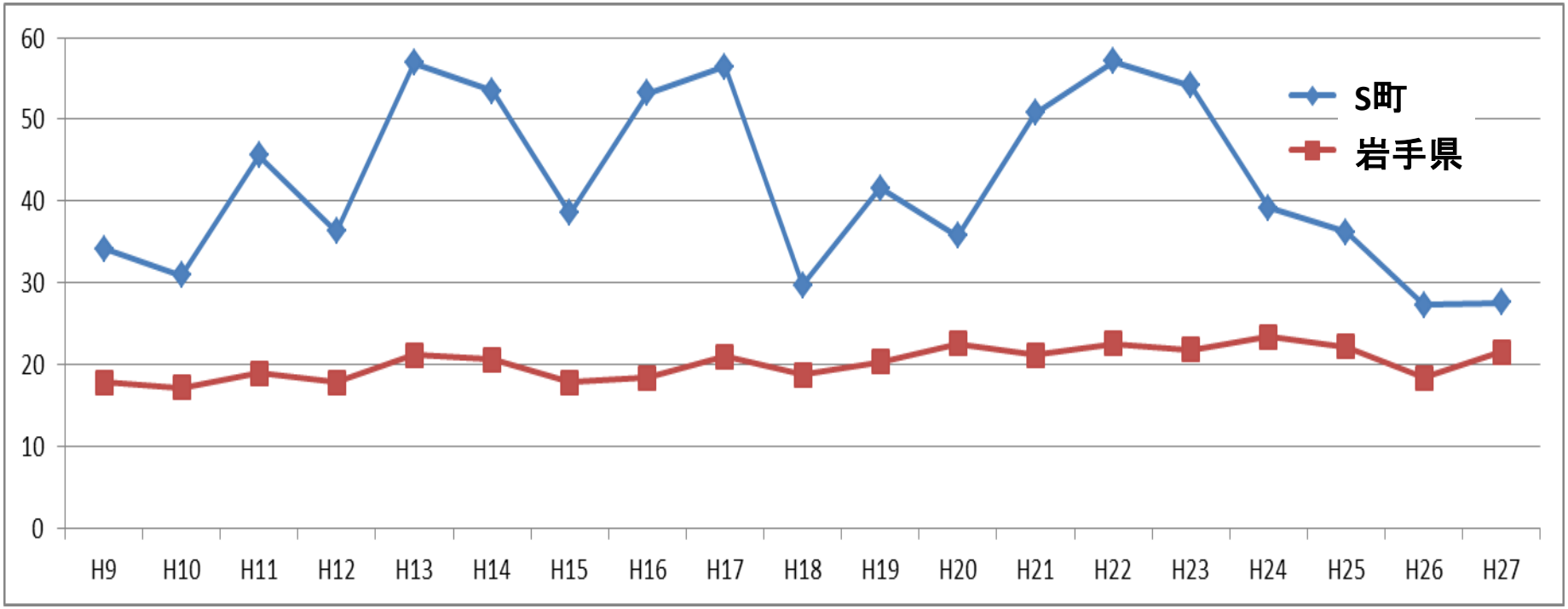
検診無料化
検診受診を個別受診勧奨
陽性者へのアドバイザー訪問，電話で受診勧奨
腹部超音波検診（未通院患者）
個別相談会
肝炎教室，当事者交流会（出前講座：町内9地区）
町独自の助成事業
広報誌などでの啓発活動

ウイルス陽性者全員の把握とフォローアップ

HCV高浸淫地区S町のHCV抗体検診陽性率の変遷

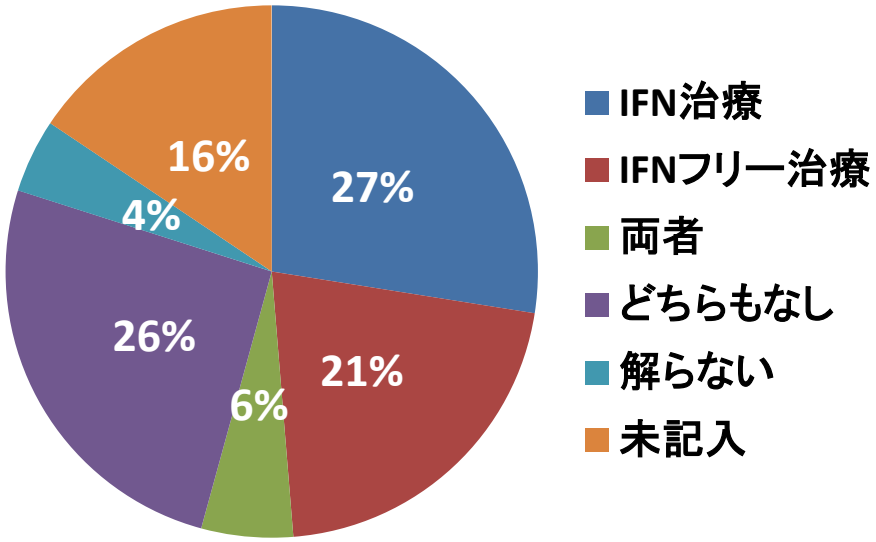


HCV高浸淫地区S町の肝癌死亡率(人口10万対)の変遷



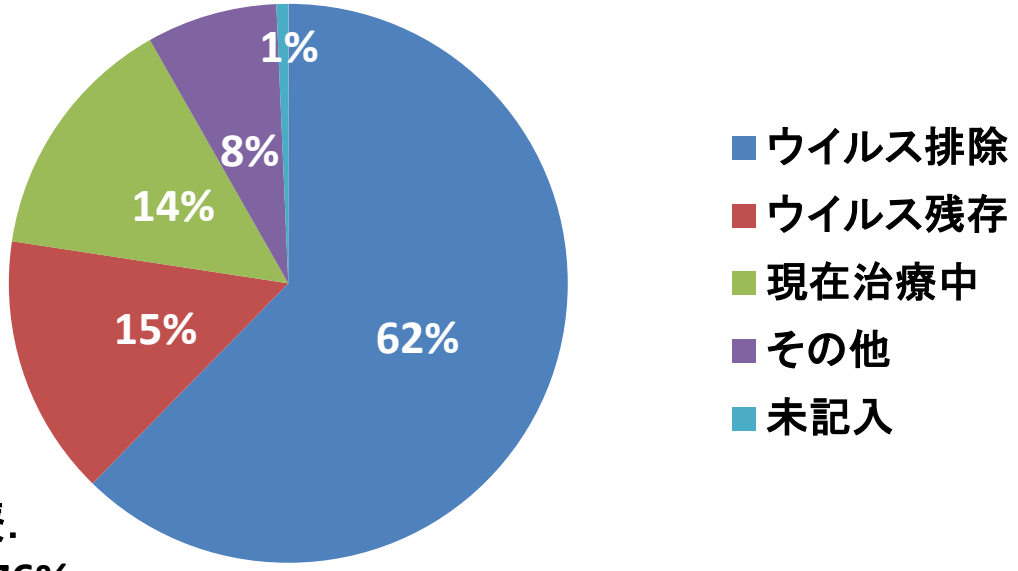
HCV高浸淫地区S町の抗ウイルス治療状況（アンケート調査，2017.2）

治療状況



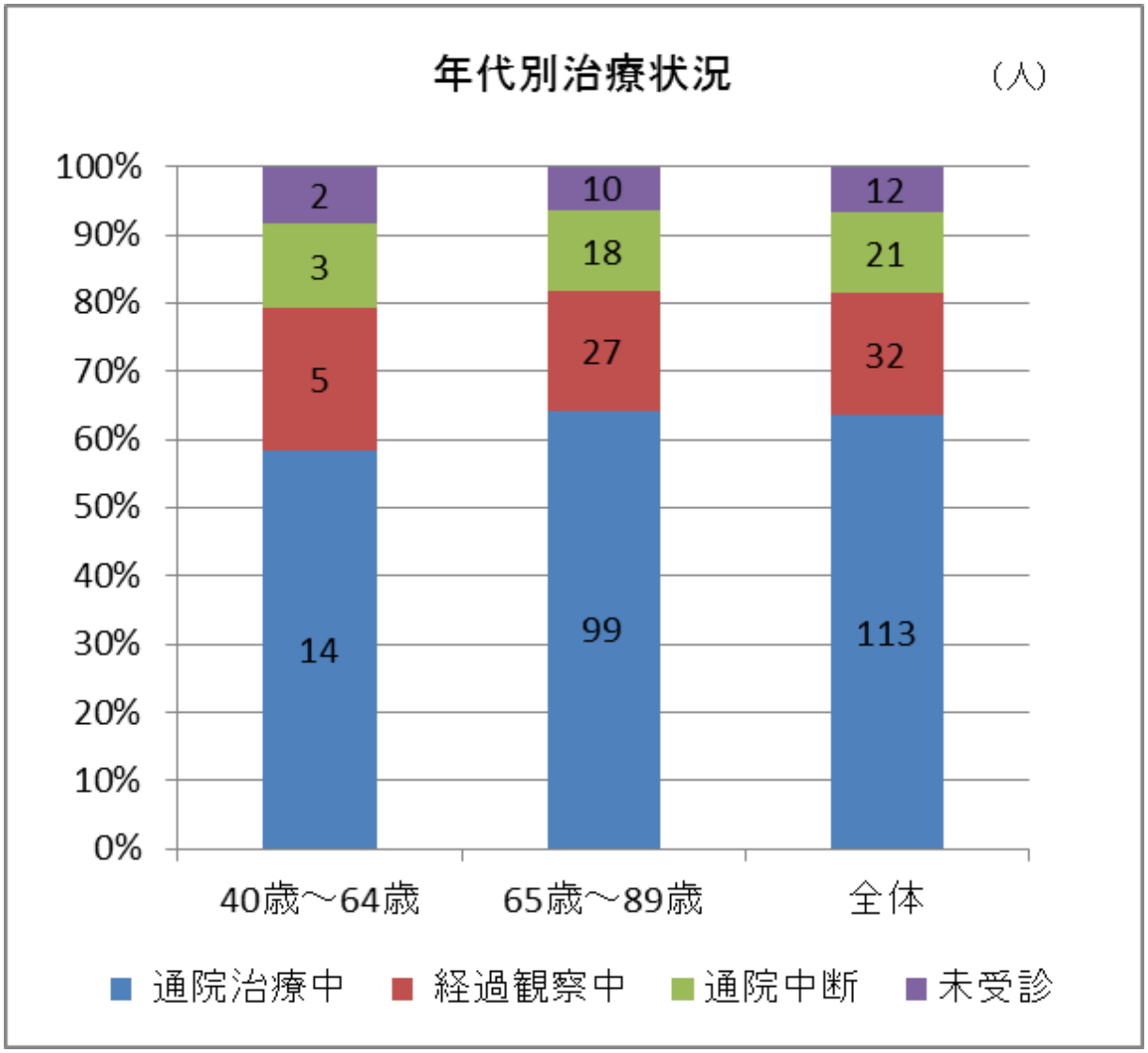
54%が抗ウイルス治療
（岩手県平均約30%）

治療効果



77%が抗ウイルス治療.
排除・治療中と合わせ76%

HCV高浸淫地区S町のC型肝炎患者の受診状況(SVRを除く)



定期受診者 80%以上，岩手県平均 40%

行政の保健師の役割（まとめ１）：事業開始15年を経て

１　肝炎ウイルス検査の受検勧奨

〇受診機会の提供　年2回集団検診の場を設定

〇受検勧奨　　全戸へ総合検診の案内

40歳の方への個別通知

検診会場における受検勧奨

（受診履歴を確認し、履歴のない方には検査を勧める）

〇無料検査ができる場所について広報で周知

（保健所及び肝炎診療ネットワーク医療機関）

２　肝炎ウイルス検査の結果、 陽性であった者への受診勧奨

〇家庭訪問による受診勧奨

正しい知識を説明をする　→　不安の解消、受診行動に繋げる。

自覚症状の有無だけでは、病態の判断はできないことを説明

〇肝炎診療ネットワーク医療機関への受診を勧める

行政の保健師の役割（まとめ２）

３　肝炎治療継続への助言・相談対応

〇治療の対象とならない場合であっても、病態にあわせ**定期的な血液検査、画像検査が必要であることを伝え続ける**。＊次の受診日を尋ねる

〇治療方法が進歩、治療の選択肢が広がっていることを情報提供する。

〇新規発見者や、未受診者には検査費用を助成するフォローアップ事業について紹介する。

※個別相談会、肝炎教室、地区健康相談などの機会を活用

※県が作成し、保健所や医療機関で配布している肝炎手帳も活用

行政の保健師の役割（まとめ３）

４　肝炎治療費助成制度等に係る情報提供

県の治療費助成事業について

町の治療費助成事業について

※町の事業の案内を郵送する際、助成事業を紹介するチラシを同封

５　その他肝疾患及び肝炎対策に係る啓発

○「肝炎教室」を開催し、新たな治療法等に関する情報や、日常生活上役立つ情報を提供する。

○　ウイルス性肝疾患に対する正しい知識を普及する。偏見の解消

岩手県における肝疾患拠点病院活動

全県での検診データの把握とフォローアップ事業への展開

アドバイザーの養成，活動による受診・治療率の向上